

講義概要

科目名 (授業科目名)	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
形態機能学 I (日常生活行動と 生命のしくみ)	1 単位(30)	1 年次 4 月	*講 師、専任教員 (実務経験のある教員 等)	30

科目目標

- 1 日常生活行動と生命のしくみとの関連を理解し、看護の視点から看護援助である日常生活行動の意味を考える。
- 2 身体の構造と機能の基礎を理解できる。
- 3 恒常性維持機能を理解できる。

内 容	備 考
<p>1 形態機能学を学ぶ意義</p> <p>2 からだの基礎知識</p> <p>1) 解剖学的用語</p> <p>2) ホメオスタシス (恒常性)</p> <p>3) フィードバック機構</p> <p>3 細胞と組織</p> <p>1) 細胞</p> <p>2) 組織</p> <p>4 内部環境の恒常性</p> <p>1) 体液の分類と量</p> <p>2) 体液の電解質</p> <p>3) 血漿の pH</p> <p>4) 動脈血の酸素分圧</p> <p>5) 血漿の糖分</p> <p>6) 体温</p> <p>5 恒常性を維持するための物質の流通</p> <p>1) 流通の媒体ー血液</p> <p>(1) 血液の恒常性の維持</p> <p>(2) 物質の運搬</p> <p>(3) 侵入物に対する防衛</p> <p>(4) 血液凝固</p> <p>2) 流通路ー血管・リンパ管</p> <p>(1) 血管の構造</p> <p>(2) 肺循環と体循環</p> <p>(3) リンパ管の構造と循環</p> <p>3) 流通の原動力ー心臓・血圧</p> <p>(1) 循環器系の構成</p> <p>(2) 心臓</p> <p>① 心臓の構造 ② 心臓の拍出機能</p> <p>(3) 血圧</p> <p>(4) 血圧の調節</p>	<p style="text-align: right;"><1回2h></p> <p style="text-align: right;"><*13回26h></p> <p style="text-align: center;">※細胞分裂・細胞内伝達情報 (イオンチャンネル型受容体)</p> <p style="text-align: center;">※血液型 (不規則抗体)</p> <p style="text-align: right;">【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)</p>

講義概要

科目名 (授業科目名)	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
形態機能学Ⅲ (日常生活行動の 構造と機能)	1 単位(30)	1 年次 5 月	*講師、専任教員 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

1 人間にとって「動く」「息をする」「見る」「聞く」「話す」「お風呂に入る」ことに関わる構造と機能について理解できる。

内 容	備 考
<p>1 日常生活行動 動く</p> <p>1) 神経から筋への指令と筋の収縮</p> <p>2) 意図的でない運動：反射</p> <p>3) 意図的な運動：随意運動</p> <p>4) 骨格・骨格筋・関節</p> <p>(1) 骨格 (2) 関節 (3) 骨格筋 (4) 筋の収縮</p> <p>5) 姿勢</p> <p>(1) 体位と構え (2) 赤ちゃんが歩くまで (3) 立位の保持</p> <p>6) 日常生活での基本的動き</p> <p>(1) 歩く (2) つまむ (3) 表情</p>	<p style="text-align: right;">< * 5回 10 h ></p> <p style="text-align: right;">< 2回 4 h ></p>
<p>2 日常生活行動 息をする</p> <p>1) 息を吸う・息を吐く</p> <p>(1) 呼吸器の構造 ① 気道と肺 ② 胸膜・縦隔</p> <p>(2) 呼吸運動 (3) 呼吸運動の神経支配 (4) 肺気量</p> <p>2) ガス交換</p> <p>(1) 外呼吸と内呼吸 (2) 血液によるガスの運搬</p>	<p style="text-align: right;">< 4回 8 h ></p>
<p>3 日常生活行動 見る・聞く・話す</p> <p>1) 見る</p> <p>(1) 眼球の構造 (2) 視覚</p> <p>2) 聞く</p> <p>(1) 耳の構造 (2) 聴覚と平衡</p> <p>3) 言葉</p> <p>(1) 大脳の言語野</p> <p>4) 声を出す</p> <p>(1) 発声に関わる器官</p>	<p style="text-align: right;">< 2回 4 h ></p>
<p>4 日常生活行動 お風呂に入る</p> <p>1) 垢を落とす</p> <p>2) 皮膚と付属物</p> <p>(1) 表皮：ケラチノサイト (2) 汗腺・脂腺・毛</p> <p>3) 皮膚・粘膜の血管と神経</p> <p>4) 温まる</p>	<p style="text-align: right;">< 1回 2 h ></p> <p style="text-align: right;">「眠る」は 形態機能学 Ⅱで学習</p> <p style="text-align: right;">【評価】 筆記試験 (1 h) 自己学習 (1 h)</p>

講義概要

科目名 (授業科目名)	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
形態機能学Ⅳ (日常生活行動の構造と機能・性のしくみ)	1 単位(30)	1 年次 6 月	*講師、専任教員 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

- 1 人間にとって「食べる」「トイレに行く」ことに関わる構造と機能について理解できる。
- 2 性のしくみを理解できる。

内 容	備 考
<p>1 日常生活行動 食べる < 3回6 h ></p> <p>1) 食欲</p> <p>2) 食行動</p> <p>(1) 食物を口まで運ぶ (2) 食物の性質の判断</p> <p>(3) 口の準備</p> <p>3) 咀嚼し味わう</p> <p>4) 飲み込む: 嚥下</p> <p>(1) 何を食べるか</p> <p>5) 消化と吸収 < * 3回6 h ></p> <p>(1) 腹部消化管の構造と機能</p> <p>① 胃 ② 小腸 ③ 大腸 ④ 栄養素の消化と吸収</p> <p>(2) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能</p> <p>2 日常生活行動 トイレに行く</p> <p>1) 尿の生成と体液の調節 < * 3回6 h ></p> <p>(1) 腎臓の構造と機能 (2) 尿生成のメカニズム: 濾過・再吸収・分泌</p> <p>(3) 排尿路 (尿管・膀胱・尿道) の構造 (4) 尿の貯蔵と排尿</p> <p>(5) 体液量調節の機構</p> <p>① レニン-アンジオテンシン-アルドステロン系 ② 抗利尿ホルモン</p> <p>③ 酸塩基平衡 ※血圧と血圧調整</p> <p>2) 排泄 < 2回4 h ></p> <p>(1) 便・尿生成のメカニズム</p> <p>(2) 便・尿意</p> <p>(3) 排泄行動</p> <p>① 排便・排尿反射 ② いきむ: 腹圧をかける ③ 排泄 (排便・排尿) する</p> <p>3 性のしくみ < 3回6 h ></p> <p>1) 男と女</p> <p>(1) 遺伝による男と女</p> <p>(2) ホルモンによる男と女</p> <p>2) 生殖器と性機能</p> <p>(1) 男性生殖器と性機能</p> <p>(2) 女性生殖器と性機能 (性周期)</p> <p>3) 妊娠のしくみ</p> <p>(1) 受精 (2) 着床</p>	<p>【評価】 筆記試験 (1 h) 自己学習 (1 h)</p>

講義概要

科目名 (授業科目名)	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
形態機能学Ⅴ (日常生活行動と 生理的機能)	1単位(30)	1年次7月	*講師、専任教員 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

- 1 形態機能学をもとに身体各部の構造と働きを理解する。
- 2 健康を評価する生理学的指標の測定を通して、働きが理解できる。

内 容	備 考
<p>1 主要臓器の構造 <* 2回6h事前講義含む></p> <p>1) 解剖見学 (1) 脳 (2) 心臓 (3) 大動脈 (4) 肺 (5) 腎 (6) 肝臓 (7) 膵臓 (8) 腎臓</p> <p>2 生理学的指標の測定と働き</p> <p>1) 恒常性維持のための調節機構 (1) 運動負荷の変化 ① 血圧 ② 心電図 ③ 脈拍 ④ SpO₂ ⑤ 呼吸回数</p> <p>2) 日常生活行動</p> <p>(1) 息をする ① 呼吸量</p> <p>(2) 食べる ① 血糖測定 ② 体重・体脂肪測定・腹囲測定 ③ 皮下脂肪厚測定</p> <p>(3) トイレに行く ① 尿比重測定 ② テステープ(糖・蛋白)</p> <p>(4) 見る・聞く・話す ① 感覚遮断 ② 視野測定</p> <p>(5) 動く ① 主要な骨・筋肉・関節の動き</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;"> <p>【演習】 <7回24h> グループワーク 発表含む</p> </div>	<p>【評価】 レポート</p>

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
疾病の発生と病情的変化	1 単位(30)	1 年次 6 月	講 師 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

- 1 疾病の原因や発生病理、形態と機能および代謝変化の原理を理解できる。
- 2 老年者の主要徴候および老年疾患について理解できる。

内 容	備 考
<p>1 疾病概論 < * 7 回 1 4 h ></p> <p>1) 疾病論</p> <p>2 疾病の成り立ちと回復</p> <p>1) 細胞・組織に生じる変化</p> <p>(1) 代謝障害</p> <p>(2) 循環障害</p> <p>(3) 炎症と免疫、膠原病</p> <p>(4) 腫瘍</p> <p>2) 変化が影響する個体の条件</p> <p>(1) 先天異常</p> <p>(2) 老化と死</p> <p>3 生命の危機とは</p> <p>1) ショックとは</p> <p>2) DIC・MOFとは</p> <p>3) 火傷・熱傷とは</p> <p>4) 死の三徴候とは</p> <p>5) 死亡判定</p> <p>6) 脳死</p> <p>4 老化と疾病 < * 7 回 1 4 h ></p> <p>1) 老化とは (生理的老化と病的老化)</p> <p>2) 老年疾患の特徴と診療時の注意点</p> <p>3) 老年者の主要徴候と老年症候群</p> <p>4) 老年者の生活習慣病</p> <p>5) 認知症</p> <p>6) 老年者の生活機能障害の総合評価</p> <p>7) 老年者の栄養と薬物療法</p>	<p>【評価】</p> <p>筆記試験 (1 h)</p> <p>自己学習 (1 h)</p>

講義概要

授業科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
感染症と微生物	1 単位(30)	1 年次 4 月	講 師 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

- 1 健康状態を脅かす微生物の人体におよぼす影響と病原微生物の感染予防について理解できる。
- 2 自己免疫疾患、アレルギー性疾患の身体的アセスメントできる基礎知識を習得し、治療の方法を理解できる。

内 容	備 考
<p>1 病原体と感染症 <*14回28h></p> <p>1) 感染と発病</p> <p>2) 感染源と感染経路</p> <p>3) 宿主の防御機構</p> <p>2 主な病原体と感染症</p> <p>1) 細菌の特徴、臨床症状、診断、治療（結核・腸管出血性大腸菌感染症など）</p> <p>2) 真菌の特徴、臨床症状、診断、治療</p> <p>3) 原虫・寄生虫の特徴、臨床症状、診断、治療</p> <p>4) ウイルスの特徴、臨床症状、診断、治療（エイズ・インフルエンザウイルス・HIV感染症・ウイルス性肝炎・麻疹・風疹・水痘など）</p> <p>3 感染症の治療</p> <p>1) 抗生物質と化学療法</p> <p>2) 薬剤耐性（AMR）</p> <p>4 感染予防</p> <p>1) 感染症法</p> <p>2) 予防接種</p> <p>3) 感染予防対策 院内感染対策</p>	<p>【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)</p>

講義概要

科目名 (授業科目名)	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
疾病と治療 I (呼吸器・循環器・血液 リンパの疾病と治療)	1 単位 (30)	1 年次 9 月	講 師 (実務経験のある教員等)	3 0 (3 0)

科目目標

- 1 呼吸器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。
- 2 循環器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。
- 3 血液・リンパ器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。

内 容	備 考
1 呼吸器系の主な疾病の病態、診断、治療 1) 気管支炎 2) 肺炎 3) 肺結核 4) 気管支喘息 5) 肺気腫 6) 慢性閉塞性肺疾患 (COPD) 7) 肺循環障害 (肺梗塞・肺塞栓症) 8) 呼吸不全、呼吸窮迫症候群 9) 肺がん 10) 気胸	< * 5 回 1 0 h >
2 循環器系の主な疾病の病態、診断、治療 1) 心筋梗塞 2) 狭心症 3) 心筋疾患 4) 心内膜炎 5) 心臓弁膜症 6) 心不全 7) 高血圧症 8) 不整脈 9) 動脈硬化症 10) 大動脈瘤、大動脈解離 11) 静脈瘤	< * 5 回 1 0 h >
3 血液・造血器系の主な疾病の病態、診断、治療 1) 白血病 2) 悪性リンパ腫 3) 多発性骨髄腫 4) 再生不良性貧血 5) D I C 6) 紫斑病 7) 白血球減少症	< * 3 回 6 h >
4 乳房の主な疾病の病態、診断、治療 1) 乳癌	< * 1 回 2 h >
	【評価】 筆記試験 (1 h) 自己学習 (1 h)

講義概要

科目名 (授業科目名)	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
疾病と治療Ⅱ (自己免疫・内分泌代謝・ 消化器の疾病と治療)	1 単位(30)	1 年次 1 0 月	講 師 (実務経験のある教員等)	3 0 (3 0)

科目目標

- 1 自己免疫系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。
- 2 内分泌代謝系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。
- 3 消化器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。

内 容	備 考
1 自己免疫系の主な疾病の病態、診断、治療 1) SLE 2) リウマチ 3) 皮膚筋炎 4) 多発性筋炎	< * 3回 6 h >
2 内分泌・代謝系の主な疾病の病態、診断、治療 1) 糖尿病 2) バセドウ病 3) クッシング症候群 4) 褐色細胞腫 5) 下垂体機能亢進 6) 高脂血症・痛風・高尿酸血症	< * 3回 6 h >
3 消化器系の主な疾病の病態、診断、治療 1) 逆流性食道炎 2) 胃・十二指腸潰瘍 3) 胃がん 4) 食道がん 5) 肝炎 6) 肝硬変 7) 肝臓がん 8) 大腸がん 9) 潰瘍性大腸炎 10) イレウス 11) クロウン病 12) 胆石 13) 膵炎 14) 膵がん 15) 鼠径ヘルニア 16) 腹膜炎 17) 横隔膜ヘルニア、吃逆	< * 8回 16 h >
	【評価】 筆記試験 (1 h) 自己学習 (1 h)

講義概要

科目名 (授業科目名)	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
疾病と治療Ⅳ (感覚器・腎泌尿器・女性 生殖器の疾病と治療)	1 単位(30)	2 年次 4 月	講 師 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

- 1 感覚器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。
- 2 腎泌尿器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。
- 3 女性生殖器系に疾病を持つ人のアセスメントができる基礎的能力を習得するため、主な疾病の病態、診断、治療の基礎的知識を理解できる。

内 容	備 考
<p>1 感覚器系の主な疾病の病態、診断、治療</p> <p>1) 耳鼻咽喉 < * 2回4 h ></p> <p>(1) 副鼻腔炎 (2) 上顎洞炎 (3) メニエル氏病 (4) 中耳炎 (5) 咽頭・喉頭がん (6) アレルギー性鼻炎 (7) 嗅覚、味覚障害</p> <p>2) 皮膚 < * 2回4 h ></p> <p>(1) 熱傷 (2) 湿疹 (3) アトピー性皮膚炎 (4) 白癬 (5) カンジダ症 (6) ヘルペス (7) 帯状疱疹</p> <p>3) 眼 < * 2回4 h ></p> <p>(1) 白内障 (2) 緑内障 (3) 網膜剥離 (4) 結膜炎</p>	
<p>2 腎・泌尿器系の主な疾病の病態、診断、治療 < 腎* 3回6 h ・泌尿器* 2回4 h ></p> <p>1) 腎不全 2) 腎炎 3) 膀胱炎 4) ネフローゼ 5) 腎腫瘍 6) 膀胱腫瘍 7) 前立腺肥大 8) 前立腺がん 9) 尿路感染 10) 尿路結石 11) 排尿障害 12) 男性性機能障害</p>	
<p>3 女性生殖器系の主な疾病の病態、診断、治療 < * 3回6 h ></p> <p>1) 子宮筋腫 2) 子宮がん 3) 卵巣嚢腫 4) 卵巣がん 5) 子宮内膜症 6) 不妊症 7) 性感染症</p>	<p>【評価】 筆記試験 (1 h) 自己学習 (1 h)</p>

講義概要

科目名 (授業科目名)	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
薬理学	1 単位(30)	1 年次 9 月	講 師 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

- 1 薬理作用の基礎知識に基づき、薬物の特徴・作用機序・人体への影響および薬物の管理について理解できる。
- 2 主な薬物の特徴について理解できる。

内 容	備 考
<p>1 薬理学総論</p> <p style="text-align: right;"><*14回28h></p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 薬理学の概要 2) 体内情報伝達機構 3) 薬の作用機序 4) 薬物体内動態 5) 薬理作用 6) 薬の管理と法令 (薬事法含む) 7) 医薬品の安全対策 <ol style="list-style-type: none"> (1) 混合の可否 (2) 禁忌 (3) 保存方法 (4) 薬理効果に影響する要因 (5) 誤薬 <p>2 薬理学各論</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 中枢神経に作用する薬 2) 末梢神経に作用する薬 3) 免疫・抗アレルギー薬 4) 心臓・血管系に作用する薬 5) 呼吸器・消化器に作用する薬 6) 物質代謝に作用する薬 7) 抗感染薬 (抗ウイルス薬・抗菌薬) 8) 皮膚外用薬 9) 抗がん薬 10) 救急医薬品 (強心薬・抗不整脈薬・狭心症治療薬・抗血栓薬、降圧薬・昇圧薬・利尿薬など) 11) 誤薬の多い薬剤 	<p>【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)</p>

講義概要

科目名 (授業科目名)	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
治療論 I (放射線・手術・ 麻酔・検査)	1 単位(30)	1 年次 7 月	講 師 (実務経験のある教員等)	30 (30)

科目目標

- 1 疾病の回復を促進する治療の原理を理解できる。
- 2 疾病の診断過程と検査について理解できる。

内 容	備 考
<p>1 麻酔による治療 <*4回8h></p> <p>1) 麻酔の管理 (1) 全身麻酔 (2) 局所麻酔 (3) 麻酔薬</p> <p>2) 全身麻酔と生体反応</p> <p>3) 麻酔の効果と二次的障害</p> <p>4) ペイン・クリニック</p> <p>2 手術療法による治療 <*4回8h></p> <p>1) 手術療法の目的と意義</p> <p>2) 手術侵襲と生体反応</p> <p>3) 術前管理 (1) 術前一般検査 ① 一般血液 ② 肺機能 ③ 循環機能など (2) 患者家族への説明 ① インフォームドコンセント (3) 術前の全身状態の管理</p> <p>4) 術後管理 (1) 創傷治癒過程 (2) 手術侵襲からの回復の促進 (3) 術後合併症の予防と対策</p> <p>5) 術後の疼痛管理</p> <p>6) 手術にかかわる重要事項</p> <p>3 内視鏡的治療</p> <p>1) 内視鏡的治療の目的</p> <p>2) 内視鏡的治療の種類</p> <p>4 救命救急医療の実際</p> <p>5 放射線治療 <*3回6h></p> <p>1) 放射線とは 2) 放射線の種類</p> <p>3) 放射線治療と管理 4) 放射線防護と健康管理</p> <p>5) 放射線障害</p> <p>6 検査 <*3回6h></p> <p>1) 臨床検査の種類 (1) 尿・糞便検査 (2) 血液検査 (3) 臨床化学検査 (4) 細菌検査など</p> <p>2) 診療と検査機器 (1) 心電図検査機器 (2) 呼吸器検査機器 (3) 脳波検査機器など</p> <p>3) 検体の採取法とその取り扱い方 (1) 一般検査(尿、血液) (2) 微生物検査(糞便) など</p> <p>4) 検査成績の見方、考え方 (1) 尿検査 (2) 血液検査 (3) 臨床化学検査など</p>	<p>【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)</p>

講義概要

科目名 (授業科目名)	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
治療論Ⅱ (栄養・リハビリテーション)	1 単位(30)	2 年次 5 月	講 師 (実務経験のある教員等)	3 0 (3 0)

科目目標

- 1 健康にとっての食事・栄養の意義と食事療法について理解できる。
- 2 リハビリテーションの概念と方法について理解できる。

内 容	備 考
<p>1 栄養と健康 <* 7回14h></p> <p>1) 国民の栄養の現状</p> <p>2) 食生活と栄養</p> <p>3) 栄養評価</p> <p>4) 過栄養</p> <p>5) 病院食</p> <p>6) 各健康障害と栄養 食事療法</p> <p>(1) 糖尿病食</p> <p>(2) 腎臓病食など</p> <p>7) 特殊栄養法</p> <p>8) 在宅における栄養</p> <p>2 リハビリテーション <* 6回12h></p> <p>1) リハビリテーションの概念</p> <p>2) リハビリテーションの対象の理解</p> <p>3) 身体機能障害のアセスメント</p> <p>(1) 徒手筋力検査 (MMT)</p> <p>(2) 関節可動域検査 (ROM)</p> <p>4) リハビリテーションの実際</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>【校内実習】 <* 3回6h></p> <p>(1) 呼吸に関するリハビリテーション (排痰法)</p> <p>(2) 運動麻痺と機能訓練 (徒手筋力テスト・関節可動域訓練・筋力低下防止訓練)</p> <p>(3) 移動に関するリハビリテーション (松葉杖・歩行器・杖)</p> </div> <p>3 言語機能回復のリハビリテーション <* 1回2h></p>	<p style="text-align: center;">心臓リハビリ リについても 触れる</p> <p style="text-align: center;">【評価】 筆記試験 (1h) 自己学習 (1h)</p>

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
公衆衛生と健康支援	1 単位 (15)	2 年次 5 月	講 師	1 5

科目目標

- 1 公衆衛生の基本内容、生活者の健康増進に対応した法制度及び保健活動の進め方について理解できる。
- 2 保健対策の動向と活動について理解できる。

内 容	備 考
<p style="text-align: right;"><* 1 4 回 2 8 h ></p> <p>1 健康と公衆衛生</p> <p>1) 公衆衛生の概念</p> <p>(1) 公衆衛生の領域、活動の特徴</p> <p>(2) プライマリーヘルスケア</p> <p>(3) ヘルスプロモーション</p> <p>(4) WHO の加盟国の特徴</p> <p>2) 健康と環境</p> <p>(1) 健康と社会環境の変化</p> <p>3) 疫学的方法による健康の理解</p> <p>(1) 量-反応関係 (2) 疫学的因果関係の推定</p> <p>(3) 横断研究 (4) 縦断研究</p> <p>4) 生活基盤</p> <p>(1) 生活単位 (2) 家庭生活の基本機能 (3) 生活の場と機能</p> <p>2 健康指標と予防</p> <p>1) 健康に関連した指標</p> <p>(1) 人口静態、人口動態、(2) 生命表、平均寿命、平均余命</p> <p>(3) 死亡・死因統計 (4) 死産・周産期死亡、乳児死亡</p> <p>(5) 健康寿命、有病率、罹患率</p> <p>3 生活環境の保全</p> <p>1) 地球環境</p> <p style="padding-left: 20px;">地球温暖化・オゾン層の破壊・酸性雨・ダイオキシン</p> <p style="padding-left: 20px;">水の安全性・大気汚染</p> <p>2) 住環境</p> <p style="padding-left: 20px;">バリアフリー・シックハウス症候群</p> <p>3) 食・生活環境</p> <p style="padding-left: 20px;">ごみ・廃棄物、一般廃棄物と産業廃棄物、市町村の責任</p> <p style="padding-left: 20px;">生活廃水処理</p> <p>4) 食品の管理、生活用品の安全対策</p> <p>4 保健活動</p> <p>1) 地域における保健活動地域保健</p> <p>(1) 市町村保健センター (2) 保健所の活動</p> <p>2) 母子保健</p> <p>3) 学校における保健活動学童期の健康管理</p> <p>(1) 健康診断・健康相談・感染予防 (2) 学校環境衛生</p> <p>4) 職場における保健活動</p> <p>(1) 健康管理とトータルヘルスプロモーション</p> <p>(2) 作業環境の管理と職業病の予防 (3) 労働安全衛生法</p> <p>(4) ライフ・ワーク・バランス</p>	<p>【評価】</p> <p>筆記試験</p> <p>(1 h)</p>

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
医療と倫理	1 単位(15)	3 年次 9 月	*講師、専任教員	1 5

科目目標

- 1 現代医学・医療のあゆみと現代医療が抱える課題を理解できる。
- 2 生命倫理とは何かを学び、いのちについて考えることができる。

内 容	備 考
<p>1 医学・医療のあゆみ <* 3回6 h ></p> <p>1) 現代医学の起源</p> <p>(1) 経験的医療</p> <p>(2) 宗教的医療</p> <p>2) 現代の医療</p> <p>(1) 近代医学の発展－現代医療の基盤</p> <p>(2) 今後の医学・医療の方向</p> <p>① 遺伝子・ゲノム医療</p> <p>② 再生医学・再生医療</p> <p>2 現代医療における諸問題</p> <p>1) 医療と倫理</p> <p>(1) 医療に関する誓約、規範にみる倫理の歴史的歩み</p> <p>(2) 現代医療における倫理</p> <p>(3) バイオエシックス (生命倫理)</p> <p>(4) 先端医療と倫理問題</p> <p>(5) 臨床医学研究と倫理</p> <p>2) 医療における患者の権利</p> <p>(1) 患者の権利尊重の医療背景</p> <p>(2) 患者の権利主張とその承認</p> <p>(3) 患者の自己決定権</p> <p>3) 生殖医療</p> <p>4) 死の変容：脳死・臓器移植・尊厳死・安楽死</p> <p>3 看護における倫理 < 4回8 h ></p> <p>1) 看護師としての職業倫理</p> <p>2) 倫理原則</p> <p>3) 看護師のつらい体験</p> <p>4) 倫理的意決定モデル</p> <p>5) 看護倫理を学ぶ意義</p> <p>6) 事例分析</p>	<p>事例検討 【評価】 筆記試験 (1 h)</p>

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
社会福祉活動	1 単位(15)	3 年次 9 月	講 師 (実務経験のある教員等)	1 5 (1 5)

科目目標

生活者の生活問題に対する法律に基く社会福祉の方法と課題について理解できる。

内 容	備 考
<p>1 社会福祉の援助対象と福祉ニーズ <* 7回 14 h></p> <p>2 社会福祉諸法の理念と施策</p> <p>1) 社会福祉の理念と変遷</p> <p>2) 生活保護法と施策</p> <p>3) 障害者(児)への施策</p> <p>4) 児童への施策</p> <p>5) 高齢者への施策</p> <p>3 社会福祉行政</p> <p>1) 保健福祉計画</p> <p>2) 社会福祉の民間活動</p> <p>3) 国、地方公共団体の行政と組織及びマンパワー</p> <p>4) 高齢者保健福祉行政の展開</p> <p>4 社会福祉援助の方法</p> <p>1) 社会福祉援助の視点・原理・方法</p> <p>2) 保健・医療・福祉の連携</p> <p>3) 社会福祉と医療</p>	<p>【評価】 筆記試験 (1 h)</p>

講義概要

科目名	単位数(時間数)	開講時期	講師名	時間
看護と医療過誤	1 単位(15)	2 年次 7 月	講 師 (実務経験のある教員等)	1 5 (1 5)

科目目標

医療過誤における法的責任を知ることにより、医療従事者としての業務と責任を自覚することができる。

内 容	備 考
<p>1 医療事故と法的責任</p> <p>1) 法的責任</p> <p>(1) 医療事故と医療過誤</p> <p>(2) 民事上の問題</p> <p>(3) 刑事上の問題</p> <p>(4) 行政上の問題</p> <p>(5) 結果予見、結果回避義務</p> <p>2) 看護記録の位置づけ</p> <p>3) 報告義務</p> <p>4) 安全配慮義務</p>	<p style="text-align: right;">< * 2回 4 h ></p>
<p>2 病院における看護の保障と法的責任</p> <p>1) 診療の補助行為に伴う事故</p> <p>2) 療養上の世話業務における事故</p> <p>3) チーム医療と看護職の責任</p> <p>4) 看護記録</p> <p>5) 継続看護における個人情報の取り扱い</p> <p>6) 医療過誤 (事例)</p> <p>7) 看護学生の臨地実習と法的責任</p>	<p style="text-align: right;">< * 5回 10h ></p> <p>・過去の医療過誤をとりあげて、グループワークを実施</p> <p>・具体的なインシデント・アクシデント事例を検討</p>
	<p>【評価】 筆記試験 (1 h)</p>